

概念分析を基にした関節リウマチ患者のセルフマネジメント尺度の開発とその活用可能性の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浅井, 美千代 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003346

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 8 号

概念分析を基にした関節リウマチ患者のセルフマネジメント尺度の開発とその活用可能性の検討

(Development of a Self-management Scale for Patients with Rheumatoid Arthritis Based on Concept Analysis and Verification of Its Usability)

浅井 美千代 (あさい みちよ)

博士 (看護学)

論文審査結果の要旨

本論文は、慢性疾患患者のセルフマネジメントの構成概念を明らかにし、関節リウマチ患者のセルフマネジメント実践状況を測定する尺度を開発、活用可能性を検討した先駆的な研究である。概念分析では、慢性疾患と共に生きるために生じた課題に対処する活動、課題への対処法を洗練するプロセス、医療者とのパートナーシップに基づく協働が導き出され、実践状況を測定する尺度を開発では、これらを下位尺度とした質問 48 項目が作成された。149 名を対象とした探索的因子分析では、23 項目となり、関節リウマチと共に生きる方法を洗練する 8 項目、生活の充実に向け工夫する 5 項目、関節リウマチの養生法を実践する 4 項目、身近な支援を活用する 3 項目、身体状態をモニタリングする 3 項目の 5 因子構造となった。確証的因子分析におけるモデル適合度指標は GFI=0.804、AGFI=0.759、CFI=0.861、RMSEA=0.078 であった。尺度全体の Cronbach's α 係数は 0.887、各国子は $0.714 \leq \alpha \leq 0.884$ で、外的基準尺度とも有意な関連性が認められた。高得点群と低得点群との 2 群間の比較検討では、生物学的製剤の使用経験、疾患・症状管理の必要性の自覚、自己効力感、心理的支援、QOL などに有意差があり、関節リウマチの病状に差はみられなかった。尺度は、23 項目 5 因子構造となり、尺度の妥当性と信頼性は概ね良好であった。下位尺度の 5 因子は、関節リウマチ患者が QOL を維持しつつ、病気の悪化を予防するためのセルフマネジメント内容を示しており、患者が実践状況の自己評価に活用可能である。また、本尺度は、治療法と心理要因、身近な支援の活用に対する弁別力があり、そのような支援の必要な対象の識別に活用できるツールでもある。関節リウマチ患者の治療法が大きく変貌する現況に即した新しい尺度の開発は看護学研究の発展に大きく寄与する論文と判断した。

よって、本論文は博士(看護学)の学位を授与するに値するものと判定した。